

## 「木更津支部脱退強要事件」中労委 (1/12)

# 小関元支区長の不当労働行為立証し勝利的に結審

一月二日、一〇時三〇分から、中央労働委員会において、「木更津支部脱退強要事件」の第一回審問が行われ、各支部からの傍聴者がつめかけの中、組合側・田中書記長、会社側・小関元支区長及び椿人事課長に対する証人調べが行われた。

本件は、小関支区長(当時)が、EC転換教育の条件として動労千葉からの脱退を強要したことが「EC転換の関係書類と合わせて入脱退届の受渡しを行ったことは、会社が人事に絡めて動労千葉からの脱退を誘いかけた」「会社の意を体した支区長の行為」であり不当労働行為であると昨年三月三十一日の千葉地労委の命令に対して、会社側が命令の履行を拒否して中労委への再審査を申し立てた事件である。

最後に田中書記長の証言が行われた。証言の中では、本件脱退強要も含めて分割・民営化以降のEC転換教育は動労千葉を脱退した者あるいは機関区関係から「血の入換え」で来た旧動労本部派の者も含めて、全てJR総連であることを明らかにし、結局、EC転換が動労千葉に対する組織破壊攻撃として使われてきた実態を鮮明に示した。

### EC転換は動労千葉破壊の手段!

### 訓練室に呼び入り脱退届を手渡す

まず、小関元支区長に対する証人調べが行われたが、会社側主尋問では地労委での証言を繰り返すのみにとどまった。組合側反対尋問では、小関元支区長が訓練室で入脱退届を手渡した事について追求すると、二階更衣室に上がった組合員の後から二階に上がり、更衣室の中からわざわざ呼付けて入寮届と入脱退届が入った袋を手渡したことが明らかに、誰の目にも触れないように脱退工作を行うなど、不当労働行為がますます

記入する欄があること、小関元支区長以降は会社としてEC転換の希望調査を全く行っていない事実などを証言し、本件脱退強要が会社ぐるみで行われた不当労働行為であることを立証し、この日をもって中労委での審問は結審した。

職場から不当労働行為を一扫し、JR総連解体―組織拡大、強制配転者の原職復帰に向け、本件中労委の勝利命令をかちとろう!

## 銚子支部

### 第二〇回支部定期大会 第一九回支部乗務員分科定期総会

一月十二日、銚子市コミュニティセンターに於いて、銚子支部は、第二〇回支部定期大会及び、第一九回支部乗務員分科定期総会を開催した。  
一五時から定期大会を開始し、議長に田中浩克君が選出され、議事を進行、冒頭挨拶にたった渡辺支部長は、「昨年一二月七日、最高裁は一人の証人調べも行わないばかりか、ILOの勧告をも無視して、政治的反動判決を下した。この暴挙に対し、支部全体でこの判決を弾劾する確認をした。」

また、昨年は春闘で二波のスライキに支部から四名が決起し、統一地方選挙では、船橋・勝浦・御宿で当選を勝ち取り、新会館建設等、新しい世代の動労千葉をつくらう」と力強く訴えた。

続いて来賓の地区労議長・金秋さんから連帯の挨拶をうけた。引き続き本部より、中野委員長は、「新ガイドライン体制下の労働運動の闘い、反合連転保安の闘い」等の提起を受け、議案の提起及び討議が行なわれ、満場一致で運動方針を採択し、新役員を選出して、渡辺支部長の団結ガンバロウで大会を終了した。

大会前に行われた支部乗務員分科定期総会で、加瀬支部乗務員分科会長は、「恒常的なスライキ体制を背景に、強制配転者の原職復帰、昇進試験差別を始めとした一切の不当労働行為根絶、JR・JR総連力クマル結託体制打倒、六〇才まで働ける労働条件と反合・連転保安確立を目指し、闘争の全面強化を勝ち取ろう」と力強い挨拶に続いて、橋本本部乗務員分科会長の挨拶を受けて、最後に勝又考則君を新役員に選出し、閉会した。

### 《主な質疑》

- ・異常時に、駅には列車の運行状況がなかなか入ってこない
- ・リニール車は「バッテリー切れ」でも走行可能であり、異常時にパンタグラフが下がらないのは問題だ
- ・踏切故障時等、運転通告を走行中、指令から通告されることがある
- ・松尾駅出発信号機故障の扱いについて詳しく教えてほしい
- ・横サボ行先表示故障時の乗務員の取り扱いについて